Nagano Prefectural Museum of History

長野県立歴史館たより

2025年　春号 vol.122

特集

開館30周年記念
令和7年所蔵品展

原始

～開館30年のあゆみ展～

令和7年度に向けて

長野県立歴史館特別館長　笹　本　正　治

いよいよ令和７年度が始まります。昨年度は開館30周年ということで過去を振り返りながら、今後に向けて考えて参りました。本年はいよいよ前進していかねばなりません。今年は巳年、蛇は脱皮し、生命力が強い､そして水に関係するとして、豊穣の神ともされました。私たちも脱皮を繰り返しながら、より良い歴史館を目指して、豊かに活動して参ります。

７年度は地域とのつながりを意識しながら、信仰にまつわる展示をしていきます。

夏の企画展は「安曇野～知られざる里山寺院の祈り～」です。現在の安曇野は多くの人を引きつける自然豊かな観光地です。その中心をなす安曇野市は2005年（平成17年）10月１日に南安曇郡豊科町・穂高町・堀金村・三郷村・東筑摩郡明科町が合併してできました。安曇郡を越えて筑摩郡までが一緒になった豊かな文化の地です。本展示会開催に当たっては安曇野市の全面協力があります。

信州の仏教信仰ではこれまで山岳信仰に目が向けられてきましたが、ここでは人々が生活する村のすぐ近くにある里山寺院について取り上げます。なお、本年は終戦の日から80年を迎えます。これに関係して、「長野県の戦争体験」を同時開催致します。

秋展は「『疫病退散』除災祈願の考古学～木製祭祀具にみる古代の祈り～」を予定しています。コロナ禍は私たちに大きな爪痕を残しました。コロナ禍ではアマビエなどそれまで姿を見せなかった疫病封じの妖怪などが多数出現しました。古代の人たちは､こうした際にいかに災害から身を守ろうとしたのでしょうか。その一端が示されます。

なお、この際の展示には本館が保存処理をした木製祭祀具が展示されます。私たち長野県立歴史館の大きな役割の一つに資料の保存があります。その活動の一端を見ていただきながら、歴史館が長野県の文化の下支えをしていることをご理解いただけたら幸いです。

冬展は「霊場小菅～飯山の遺産と文化～」です。飯山市の「小菅の里および小菅山の文化的景観」は、2015年（平成27年）に国の重要文化的景観に選定されましたので、今年が10周年に当たります。この地は集落中央の道路から西を見ると妙高山、東の小菅山には重要文化財に指定されている小菅神社奥社があります。小菅山は７世紀前半に遡る修験の山ですが、現在まで宗教的雰囲気をよく伝えており、とりわけ３年に１度執行される国指定の重要無形民俗文化財である柱松柴神事は、修験道の雰囲気が色濃く残しています。今年はその３年に１度の年でもあります。

小菅の柱松神事

年によっては４メートルを超す積雪の地で、古くからの文化と景観が維持されてきたことは奇跡的です。地域文化の凄さとそれを維持してきた住民の絆を感じてみてください。なおこの展示は飯山市の全面的な協力を得ています。

私たちは長野県各地の市町村と手を携えて、新たな展示に挑んでいきたいと思っています。そのために本年は安曇野市と飯山市のご協力を得ました。両市に深く感謝致します。

心の豊かさが人間の豊かさの根源にあるはずです。今年の企画展では信仰を通しながら、私たちが何を得て、何を失ってきたかを考えていただけたら幸いです。そして、戦後80年ということで、平和について思いをめぐらせたいものです。

（特別館長　笹本正治）

研究の窓

古代銭貨 ―古代のお金のこと知っていますか―

無文銀銭～富本銭～和同開珎銀銭～和同開珎銅銭

日本で最初の鋳造貨幣は藤原京が都だった708年（和銅元年）に鋳造された「和同開珎」とされていましたが、1999年（平成11年）１月20日の奈良県明日香村の飛鳥池遺跡の発掘調査、研究成果の発表から、「富本銭」であることが明らかとなりました。683年（天武12年）以降に鋳造されたものです。

これまで、『日本書紀』天武12年（683年）４月壬申（15日）の条に、詔（みことのり）して曰（のたま）はく「今（いま）より以（の）後（ち）、必（かなら）ず銅銭（あかがねのぜに）を用（もち）ゐよ。銀銭（しろがねのぜに）を用（もち）ゐること莫（なか）れ」とあり、天武朝に和同開珎が造られたのではないかとも考えられていましたが、飛鳥池遺跡の調査、研究により、この記事に記載された銅銭は富本銭であることがわかりました。

では、銀銭を用いることなかれの銀銭は何だったのでしょうか。実は、この富本銭の前には、新羅で作られたと考えられ、秤量貨幣（ひょうりょうかへい）である無文銀銭が僅かですが使われていました。この日本書紀の記載は無文銀銭と富本銭を示していたことがわかりました。

これ以後、和同開珎からはじまる鋳造貨幣の皇朝十二銭が造られますが、富本銭や和同開珎は、中国の唐で621年（武徳４年）に鋳造された「開元通寶」をもとに、規格等を模倣し創出されました。開元通寶は、唐滅亡までの280年間鋳造されます。東洋型貨幣の規範、基準となりました。

『続日本紀』和銅２年（709年）８月乙酉（２日）の条に、「八月乙酉（二日）、銀銭を廃（や）めて、一（もっぱ）ら銅銭を行（おこな）はしむ。」とあります。

和同開珎は当初銀銭が造られ、銅銭へと移行したことがわかります。

天武朝前後の社会では、価値体系の基軸が地金の銀でしたが、原材料となる銀の不足と、７世紀に始まる長門国での銅生産以降、武蔵国や西日本を中心に分布する銅山の発見による銅の安定性から、流通貨幣の基軸を鋳造貨幣の銅銭と方向付けられました。和同開珎銀銭から銅銭への移行は、銅銭への移行を円滑に進めるためのものでした。

左＝武陵地１号古墳出土 高森町歴史民俗資料館蔵
径2.41cm、厚さ0.13cm、重さ3.02g

右＝恒川遺跡群44号竪穴建物跡出土　飯田市美術博物館蔵
径2.45cm、厚さ0.15cm、重さ4.12ｇ

富本銭の出土は奈良県の藤原京跡を中心に11遺跡の出土や発見があり、下伊那郡高森町武陵地１号古墳出土「富本銭」（長野県宝）や飯田市座光寺地域（恒川遺跡群）発見の「富本銭」（長野県宝）はそのうちの２か所の２枚となります。また「和同開珎銀銭」については、東日本では恒川遺跡群44号竪穴建物跡の床面出土１枚（長野県宝）を含め３遺跡他の４枚が確認されています。本県出土資料がいかに貴重か理解できると思います。

和同開珎から始まる皇朝十二銭の最後の鋳造貨幣である958年（天徳２年）の乾元大寶以降、日本では中国の歴代王朝からの渡来銭が用いられ、国産鋳造貨幣の登場は江戸時代の「寛永通寶」を待たねばなりません。

古代銭貨は当初から流通貨幣として用いられ、入手した結果として厭勝銭（呪い銭）として用いられたと考えられます。

（西山克己）

【展示資料の味わい方】

所蔵品展

原始 ～開館30年のあゆみ展～

1994年（平成６年）11月、長野県立歴史館は考古資料を取り扱う部門を一つの柱に据えて、開館しました。以後30年間、長野県が中心となり、あるいは関わって進めた遺跡の発掘調査は、約400箇所に及びます。その出土文化財全てを県立歴史館が所蔵するわけではありませんが、遺跡の所在する地域で保管し、守り伝えられる資料とともに、長野県の歴史にとって掛け替えのない文化遺産として大切に保存し、継承しています。

今回の所蔵品展では、記録保存された文化遺産から、長野県に特徴的な考古資料、第一に考古学的重要性を特に担うもの、第二に製作の精巧性や芸術性の豊かさ、高い文化力を示すものを取り上げ、公開頻度の少なかったものにも留意しました。

旧石器時代

長野県の旧石器時代には、諏訪市茶臼山遺跡、信濃町杉久保遺跡、南牧村矢出川遺跡など、学史に名高い遺跡が数多くあります。佐久市香坂山遺跡発見の日本列島最古級の旧石器は、旧人と新人の交代劇が議論される約４万年前に遡る古さを示すとされています。信濃町野尻湖遺跡群（日向林Ｂ遺跡・貫ノ木遺跡ほか）にある列島最多の斧形石器（国重要文化財）、そして杉久保、茂呂、国府など地域色あるナイフ形石器の集合など、日本列島全体の歴史を左右する出土品があります。

日向林Ｂ遺跡　斧形石器と砥石　当館蔵

縄文時代

長野県は、日本列島でも比類のない縄文文化を持つ地域です。縄文時代への移行期、南箕輪村神子柴遺跡で発見された長身で優美な槍先型尖頭器は、実に完成度の高い石器です。また信濃町星光山荘Ｂ遺跡では、小形の有舌尖頭器と微隆起線文土器が伴出し、弓矢の登場に関する議論に一石を投じています。

縄文時代早期、長野県を特徴づける資料に表裏縄文土器と押型文土器があります。信濃町東裏遺跡では表裏押型文土器が表裏縄文土器とともにあることから、押型文土器起原論に一光を与え、千曲市鳥林遺跡等で確認された立野式押型文土器を最古級とする論議も再起しています。

縄文前期、薄手で尖底を特徴とする中越式土器が諏訪地域を中心に分布します。定住の進展を示す集落像とともに石製垂飾具が登場、縄文社会の構造（階層分化等）について議論できるまでになりました。前期終末、晴ケ峯式土器は、印刻手法で加飾する見事な土器です。角のように突き出た長い突起をもつ松原遺跡出土の逸品は、まるで“当館の顔”のように、皆様から愛されています。この土器とともに豊富な石製垂飾具が出土し、玦状耳飾を始めとする５種類もの石製品の集合は、列島でも今のところ、ここにしかありません。こ

松原遺跡　晴ケ峯式土器　当館蔵

の地が縄文時代の重要な物流拠点であった証拠として、継続的な調査研究が行われています。

縄文中期は“縄文王国”と称されるほど、規模の大きな遺跡が数多く確認されています。集落跡からは、立派な石囲み炉、大量で多様な石器、芸術性豊かな縄文土器、土偶などが出土しています。土器には、有孔鍔付土器、釣手形土器（香炉形土器）、器台形土器など、それまであまり作られなかった異形の土器が登場します。祭祀的な道具とみられていますが、縄文人は何を願ったのでしょうか。生活の安定、豊穣？「縄文中期農耕論」は未だに帰結していませんが、富士見町藤内遺跡出土の大きな製粉用の石皿、小諸市郷土遺跡や佐久市大奈良遺跡出土の大量の石鏃や刃器は、縄文人が石の道具に投下した強いエネルギーを感じさせてくれます。中期後半に始まる寒冷化は、遺跡数の減少と相関する可能性も考えられます。安曇野市北村遺跡からは縄文人骨300体分が発掘され、内陸部での人骨発見例として極めて貴重で、20世紀最大の発見と評されています。埋葬人骨には、甕被りや抱石などもみられ、特に浅鉢で顔を覆う習俗は、長野県を中心に分布すると指摘されています。

弥生時代

弥生文化研究にも大きな進展が訪れています。大陸系磨製石斧の製作遺跡の発見により、弥生石斧の生産と流通に関する研究が東日本でも可能になりました。長野市榎田遺跡と同市松原遺跡を中核とする生産共同体の確定（10km圏内）は、最大の発見の一つと言えます。また中野市柳沢遺跡での銅鐸５点、銅戈８点を含む青銅器埋納坑の発見は、これまで西日本でのみ確認されていた農耕に関わる青銅器祭祀が、「接触文化」地域とされた長野にも存在することを明らかにしました。弥生時代中期後半の土器文化は栗林式と北原式に分かれますが、長野県の南北で土器そして石製農具に顕著な違いが現れます。

弥生後期は、石から鉄への一大転換期にあたります。石器の製作技術をいち早く捨てた県北部の箱清水式文化と石製農具を継続した南部の中島式文化では、稲作導入に伴い形成された文化形態に大きな違いが生まれました。箱清水式土器は、甕以外の器に赤彩を施す特徴から「赤い土器」とも呼ばれています。

榎田遺跡　箱清水式土器　当館蔵

古墳時代

古墳文化研究では、前方後円墳を通してみる政治組織論、意外に古くからあった長野県北部の馬生産など、当県のフィールドならではの新事実が判明してきました。善光寺平南部で千曲川を挟んで築造された前方後円墳。築造年が不明であった千曲市倉科将軍塚古墳が５世紀前半であることが判明し、「首長権の輪番制」に関わる議論が再び深められつつあります。合わせて低地部にある石川条里遺跡で発見された石製品（石釧・車輪石・紡錘車・管玉）から、そこに豪族居館を読み取る考えもあり、当該地域の政治体制が検討され始めています。馬の飼育の始まりは、県南部で古墳時代中期と推定されていましたが、長野市塩崎遺跡群等でそれよりも早い時期の馬関連資料が見つかりました。榎田遺跡で出土した木製壺鐙は日本列島最古級で、同市飯綱社古墳出土の鉄製輪鐙も最古事例の一つになります。

榎田遺跡　木製壺鐙　当館蔵

（町田勝則）

文献史料を読む

旅の記録 ～松前記行漫録～

江戸時代、伊勢参りに代表されるように旅が一大ブームとなり、旅の様子がうかがえる史料が多く残されています。現在これらの史料は道中記と呼ばれていますが、大きく２つのグループに分けることができます。一つは実際に旅をした人が日付や金銭の支出などを記録したもの、もう一つは書店などが刊行し旅案内として利用されたものです。

当館の収蔵史料である「松前記行漫録」は、文政年間に松代から松前を旅した際の記録で、甲～癸の全10冊からなります。筆者の名は記されていませんが、松代藩士の渡辺格ではないかと推定されています。

1829年（文政12年）3月16日に松代を出発し、上越を経て日本海側を北上、津軽半島から蝦夷地（現・北海道）へ渡り、4月下旬、松前福山城下へ至ります。その後、函館まで進み、下北半島へ渡ると今度は太平洋側を下り、６月中旬に日光、さらに上州から大笹街道を経て6月20日に松代へ帰郷します。当時の伊勢参りなどを見ても、目的地からそのまま国許へ戻る往復型の旅はまれで、諸国を巡る周遊型は一般的な旅でした。

「松前記行漫録」は日付や天気、里程だけでなく、立ち寄った村や町の様子や名産、寺社仏閣の由来など様々な情報がかなり詳しく記されています。しかし、雪が残る新井宿（現・新潟県上越市）で「この雪の下に新井宿と記した棒柱が埋まっている」と通行人から聞いたことなど実際に現地で見聞きしたことが書かれている一方、新潟県の米山という地名の由来に関する記述では、1798年（寛政７年）に刊行された橘南谿（たちばななんけい）の「東遊記」を引用したと思われる記述が見られます。このことから「松前記行漫録」は旅行中の下書きをもとに、帰国後「東遊記」など刊行物の記載も参考にして作成したものと考えられます。

このように、旅の記録は帰国後作成されたものが多く見られます。旅の費用は伊勢講のように講組織で支えられていました。旅をする人はその代表者であったため、支出を中心とした旅の記録は講仲間への報告書でもありました。そこで帰国後に清書する際、次の旅へ出かける人のために名所旧跡などの情報を書き加えたものと考えられます。その際、刊行された旅案内なども参考にしていました。つまり、道中記は旅の様子をうかがい知る貴重な史料ですが、その中には、旅人が実際に見聞きしたものと、刊行物などに記されたものが入り混じっており、同様のものとして扱うと、旅や当時の様子が実態とは異なる理解となってしまう可能性があります。

幸い、「松前記行漫録」は「東遊記」を参考にしていることがわかっているため、これと突き合わせていくことで、旅人オリジナルの記録か否か区別することができ、より正確に当時の実態を捉えることができます。このように「松前記行漫録」は当時の様子を浮かび上がらせる多くの情報を持った魅力的な史料なのです。

松前記行漫録

当館には古文書愛好会という古文書の読解や整理作業を行う有志の団体があります。愛好会の活動である「館蔵文書を読む会」では、令和６年度「松前記行漫録」の甲・乙・丙・丁の4冊をテキストとし、読解と翻刻を行いました。製本したものは当館閲覧室にも配架されますので是非お手に取ってみてください。

なお、令和７年度の愛好会会員は４月より募集します。興味のある方は是非一度見学にお越しください。

（新井寛子）

INFORMATION
インフォメーション

■2025（令和7）年 3月～6月の行事予定

3月
休館日
3・10
17・21
24・30

4月
休館日
7・14
21・28
30

5月
休館日
7・12
19・26

6月
休館日
2・9
16・23
30

企画展・所蔵品展

令和7年所蔵品展

原　始

～開館30年のあゆみ展～

3月15日㈯～6月15日㈰

■講演会
「考古資料30年の歩み」
5月10日㈯　13:30～15:00
水澤教子（当館総合情報課長）

■ギャラリートーク
第２土曜日　13:00～13:30

講座・イベント

県立歴史館講座⑦
3月1日㈯　13：30～15：00
「2025年所蔵品展　原始編」
町田勝則（当館総合情報課）

古文書入門教室
3月20日㈭
10：00～12：00

親子映画会
3月20日㈭・22日㈯・23日㈰
※いずれの日も13:30～15:00

歴史館で子どもの日
5月5日（月･祝）
各種イベント

古文書講座

初級	A	第１回	5月18日㈰①
	B	第１回	5月15日㈭①
中級	A	第１回	5月17日㈯①
	B	第１回	5月15日㈭①
上級		第１回	5月24日㈯①

古文書出前講座①
IN 諏訪市博物館
5月25日㈰

県立歴史館講座①
6月7日㈯

古文書講座

初級	A	第2回	6月22日㈰①
	B	第2回	6月19日㈭①
中級	A	第2回	6月21日㈯①
	B	第2回	6月19日㈭①
上級		第2回	6月28日㈯①

古文書出前講座②
IN 諏訪市博物館
6月29日㈰

表紙写真の解説

晴ケ峯式土器（はれがみねしき）

愛称「トロフィー形土器」（当館蔵）
長野市松原遺跡　縄文時代前期末 約5,500年前

大きく、まっすぐに伸びた突起、底部にちょこっと付いた台、“異形の台付き土器”とでも呼ぶべきか。縄文をほとんど用いず、印刻（いんこく）手法で模様を描く。長野県内には、全体形の分かる同等の復元土器が５つほどあるが、中でも芸術性の高い優品である。

行事アルバム

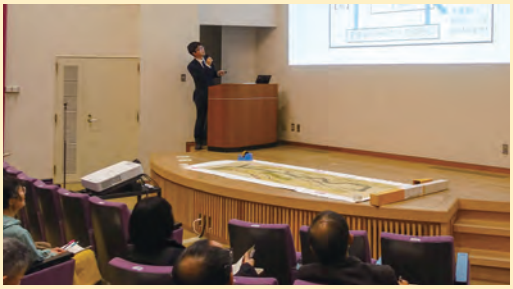
****　クリスマスリースづくり　****

恒例となっているクリスマスリースづくりが12月１日㈰に行われました。土台には縄文人も使っていたフジヅル、飾りには縄文人が食べていたどんぐりや、土器片や土偶片を使った型から作ったレプリカなどを使うので「縄文風クリスマスリース」です。参加者の皆さんは縄文時代に思いをはせながらリースづくりを楽しんでいました。

******　考古学体験講座　******

10月から12月にかけて全３回の考古学体験講座が行われました。第１回は木製品、第２回は金属製品、第３回は土器を扱い、いずれも本物に触れながら出土したモノの観察方法、保存処理や科学分析などを体験していただきました。参加者の皆さんには「貴重な体験」と喜んでいただくとともに、本物であるがゆえにより真剣に学んでいただきました。

******　近世史セミナー　******



12月７日㈯に行われた近世史セミナーは「近世の川除と水害」をテーマに行われ、宮坂和弥氏からは松本藩の治水政策を事例に民営化による課題について、山崎圭氏からは千曲川の水害を事例に開発と災害について、山浦直人氏からは千曲川の川筋変更を事例に絵図と古文書を照合する重要性について指摘があり、今を生きる私たちに多くの示唆を与えてくれる研究発表となりました。

開館カレンダー

4 April　2025（令和７）年

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5 May　2025（令和７）年

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6 June　2025（令和７）年

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

7 July　2025（令和７）年

月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8 August　2025（令和７）年

月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9 September　2025（令和７）年

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

10 October　2025（令和７）年

月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

11 November　2025（令和７）年

月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

12 December　2025（令和７）年

月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1 January　2026（令和８）年

月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2 February　2026（令和８）年

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3 March　2026（令和８）年

月	火	水	木	金	土	日
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24/31	25	26	27	28	29

- 休館日　※9/8～9/18は全館燻蒸による休館
- 【夏季企画展】安曇野　～知られざる里山の祈り～（仮）
- 【冬季企画展】霊場小菅　～飯山の遺産と文化～（仮）
- 【令和7年所蔵品展】原始　～開館30年のあゆみ展～
- 【秋季企画展】「疫病退散」除災祈願の考古学　～木製祭祀具に見る古代の祈り～（仮）
- 【令和8年所蔵品展】長野県の戦後再出発（仮）

イベント・講座　～Event・Lecture～

イベント

５月５日(月･祝)	**歴史館で子どもの日**
８月２日(土)	**歴史館で夏休み**
11月３日(月)	**開館記念日**
11月29日(土)	**クリスマスリースづくり**
12月６日(土)	**近世史セミナー**
３月20日(金･祝)･21日(土)･22日(日)	**親子映画会**

県立歴史館講座（事前予約制）

長野県の歴史に関する最新研究をもとにした講座です。身近な地域の歴史など、幅広いテーマを取り上げて開催します。
□５月～３月にかけて全７回開催　□各回事前予約制

考古学体験講座

土器や石器などを実際に手に取って観察する講座です。
□10月～12月にかけて全３回開催　□事前予約制

古文書講座（通年受講制）

古文書はまったくはじめてという方を対象にした「初級」、くずし字辞典を引き、ある程度文字を読むことができる方を対象にした「中級」、やや難しい近世文書の読解ができる方を対象にした「上級」の３講座を開設します。
□各講座とも全６回開催（フォローアップ講座を含む）
□通年受講制（５月～11月）
□申し込み受付　４月11日(金)～　※定員になりましたら締め切ります。

ティーンズ講座

中･高･大学生を対象とし古文書講座と考古学講座を開催します。
□古文書講座　８月１日(金)、２日(土)
□考古学講座　８月７日(木)、８日(金)

「県立歴史館出前講座」、「おでかけ歴史館」も行っています！
詳細は、県立歴史館ホームページをご覧いただくかお電話にてお問い合わせください。　☎026-274-3991（総合情報課）

企画展示　～Special exhibition～

開館30周年記念　令和７年所蔵品展
原始　～開館30年のあゆみ展～
開催期間　３月15日(土)～６月15日(日)

夏季企画展
安曇野　～知られざる里山の祈り～（仮）
開催期間　７月５日(土)～８月24日(日)

鳳凰形金銅製飾板（複製）
宮内庁書陵部蔵

満願寺
安曇野市穂高牧

北村遺跡出土　仮面土偶
長野県立歴史館蔵

秋季企画展
「疫病退散」除災祈願の考古学～木製祭祀具に見る古代の祈り～(仮)
開催期間　10月４日(土)～11月16日(日)

冬季企画展
霊場小菅　～飯山の遺産と文化～（仮）
開催期間　2026年(令和８年)１月10日(土)～３月１日(日)

長野県立歴史館たより 春号 vol.122
2025年（令和７年）２月15日発行　編集・発行　長野県立歴史館

〒387-0007 千曲市大字屋代260-6　電話 026-274-2000(代) FAX 026-274-3996
E-mail：rekishikan@pref.nagano.lg.jp　ホームページ：https://www.npmh.net/

印刷　有限会社アッツーロ